

intertek

news

Vol.91

ISO関連季刊情報誌(年4回発行)

CONTENTS

01 新年のご挨拶

02 特集

03 ISO 14001規格改訂要求事項(国際規格案)の全体像

04 News&Topics

- ▶ 世界のISO認証件数が公表
- ▶ FSSC 22000 Version7 発表へ
- ▶ ビジネスマッチ東北2025/脱炭素経営EXPO関西2025に出展
- ▶ Q&A

05 審査の現場から

- ▶ お客様紹介
(株式会社ヨシダセイコー 津幡工場)
- ▶ 連載よみもの「審査員の心理」(環境編)
「パフォーマンス評価(4)」

06 連載よみもの

- ▶ 審査員リレーエッセイ
「ペランダからの風景 -健康のありがたさ-」
(審査員 林 憲治)
- ▶ 環境よみもの「ゆらぐ時代と、つなぐ力」《新》
「ISOとともに未来を見つめて」

07 お客様からのお便り

- ▶ 「日本を代表するブレッドカンパニーへ」
(株式会社スタイルブレッド)
- ▶ 「創業120年を迎えるベンチャー企業」
(オズ株式会社)

08 研修コースのご案内

- ▶ ちょっといっぶく
- ▶ 研修コース案内
- ▶ 受講生からのお便り
(株式会社日本海メディカル)

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所

◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。

<https://ba.intertek-jpn.com/>

新年のご挨拶

 きむら ともあき
代表取締役 木村 朋聡

新年あけましておめでとうございます。

2025年は、国内外ともに大きな節目と変化の年となりました。経済環境の不確実性に加え、記録的猛暑や局地的豪雨災害が続き、気候変動の影響も一層深刻化しています。こうした環境課題は、企業活動やサプライチェーン全体に影響を及ぼし、持続可能な未来への対応が急務となっています。



ISOマネジメントシステムにおいては、2024年に気候変動への配慮を求める追補が加えられましたが、さらに改訂版への発行に向けて進行しており、本年春頃にまずISO 14001、秋頃にはISO 9001、それに引き続きISO 45001と主要規格の改訂が予定されています。新版では、気候変動に関する要求事項の正式な統合に加え、サステナビリティ(持続可能性)の強化、リスクと機会の管理の明確化、企業ガバナンスの透明性向上などが盛り込まれる見込みで、ESG(環境・社会・ガバナンス)や、GHG(温暖化効果ガス)排出量の検証と削減等への対応が求められる昨今の市場環境や情報開示基準の整備といった動向とも深く関係しています。改訂に伴う移行支援として、準備対応に向けたオンデマンドセミナーなども順次開催しておりますので、詳細は弊社ウェブサイトをご参照ください。

また、AI技術の急速な普及に伴い2023年に発行されたAIマネジメントシステム、ISO/IEC 42001の国内での認証が昨年正式に開始されました。AIの活用が広がり、製品やサービスの開発・提供・利用における信頼性や透明性、責任ある運用を確保するための仕組みの重要性が高まる中、企業にはAIガバナンス体制の整備が求められており、弊社でも取り扱いに向け準備を進めております。

近年、企業を取り巻く環境は大きく変化しており、特にサステナビリティが企業経営の重要なテーマとなっています。インターテック・サーティフィケーションでは、ISO関連サービスに加え、サステナビリティ支援や企業ガバナンスで必要性が高まっているESGやGHGへの対応、さらにサプライチェーン全体の信頼性確保やトレーサビリティ向上に向けたサービスも展開し、お客様のトータル品質のパートナーとして、あらゆる品質課題に対するサポート拡充に努めております。私たちインターテックグループの提供する試験・検査・認証サービスは、品質や安全を保証するだけでなく、社会の持続可能な発展を支える重要な役割を果たしています。加速的に広がる昨今の市場変化のスピードに対応できるよう、お客様の成長と発展、またグローバル市場への事業展開実現に向けて引き続きお手伝いをさせていただきます。

最後に皆様のご支援と信頼に感謝申し上げます。私たちの仕事はすべて、「品質・安全・サステナビリティを世の中にもたらす」という大きな使命につながっており、新たな年に向けてお客様のあらゆる課題に対するソリューションを提供できるよう社員一同精進してまいります。

新年が皆様とご家族の方々にとりまして、健康で幸せな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

ISO 14001

規格改訂

要求事項 (国際規格案) の

全体像

インターテック・サーティフィケーション
認証部

今春改訂発行するISO 14001規格の要求事項ポイントについて紹介いたします。国際規格案 (DIS=Draft International Standard) の情報ですが、認証移行準備に向けてご確認ください幸いです。

1

ISO 14001環境マネジメントシステム 要求事項の改訂概要

第一に、全体として世界、現社会が求めているサステナビリティ=持続可能性、そして、サプライチェーン、ライフサイクルの視点、これらを2015年版よりさらに強く要求しております。組織内のプロセスだけではなく、関係する前後の外部プロセスを含めた利害関係者との連携、さらに、組織の製品やサービスに至る、また、製品サービス提供の後を含めた各段階も考慮しながら運用することで、地域、社会全体、さらには世界、地球規模のサステナビリティ=持続可能性につながることを求めています。さらに、これらを含めたマネジメントシステムの運用目的実現への関与の重要性のためマネジメントレビュー箇条構成が改訂されております。そして、規格要求事項の箇条の新設、移動等となります。

今回の改訂発行は、過去大幅に改訂した2004年版から2015年版よりも表面上では改訂箇所は少なく、小さく見えますが、現社会が大きく求めている「サステナビリティ=持続可能性」を地球規模で実現していこうとする、意義的に大きな改訂と捉えていただきたいと、認証組織様には期待いたします。

特集

前号に引き続き、間もなく新版の発行が予定されている ISO 14001 環境マネジメントシステムの規格改訂について取り上げております。今号では、現行版との比較を交えながら、改訂に伴う要求事項の要点をご紹介します。前号と併せてご覧いただくことで、新版への移行準備の一助となればと存じます。
(編集部)

2

トップマネジメントに求められる 運用目的実現への「文化」の醸造

マネジメントシステムの運用目的実現への関与の重要性のためマネジメントレビュー箇条構成が改訂されることに関連し、箇条5.1 リーダーシップ及びコミットメントでは、組織の環境責任をマネジメントするシステムに対し説明責任をトップマネジメントが保持することを要求しており、強い関与を求められております。さらに「トップマネジメントは、環境パフォーマンスの向上、順守義務を満たすこと及び環境目標の達成を含め、環境マネジメントシステムの意図した成果に寄与する活動に組織で働く人々、又は組織のために働く人々を参加させる『文化』を推進すること」を要求の意図としており、環境及び持続可能性の課題に対する行動を通じて、リーダーシップを実証し利害関係者との信頼関係を高めることを要求しております。

ISO 14001 環境マネジメントシステム改訂 — 発行情報 —

改訂版内容ポイント (DIS=Draft International Standard)

- ✓ サステナビリティ、サプライチェーン、ライフサイクル視点強化
- ✓ 環境配慮の取り組み強化
(汚染レベル、天然資源利用可能性、気候変動、生物多様性、生態系の健全性など)
- ✓ マネジメントレビューへの「インプット」、マネジメントレビューの「結果」(重要性)
- ✓ 「6.3 変更の計画と管理」の新設
- ✓ 箇条新設と移動
(「6.1.4 リスク及び機会」の新設により「6.1.1 一般」の一部が移動)
- ✓ 箇条新設と移動 (取組みの計画策定 6.1.4 ⇒ 6.1.5)

3 重要な認証移行準備に向けて

認証組織様が認証を継続するためには、現在認証を受けている現2015年版から、最新版の2026年版へ認証を移行しなければなりません。そのためには「移行審査」を受けなければならない、準備に重要なことは現2015年版に適合している認証組織様のマネジメントシステムを、予定2026年版要求事項に適合するように組織様自身で改訂することです。移行審査までに改訂したマネジメントシステムで運用し、運用実績を残すことが必要になります。

認証移行への準備詳細とスケジュールイメージ等をつかむ内容については、前号でご紹介しましたオンデマンド形式で開催の「ISO 14001:2026(予定)改訂準備セミナー」のご受講を推奨いたします。

※セミナー詳細・お申し込み等は、弊社ホームページをご参照ください。

(https://ba.intertek-jpn.com/on_demand/?category=2)

企業価値、組織の持続可能性を高め、さらに社会が求める世界的、地球レベルの持続可能性をつくりあげていくためにも、認証移行に向けてご準備をよろしくお願いいたします。

ISO 14001:2015 と ISO 14001:2026 (予定：現 DIS) 比較

ISO 14001:2015	ISO 14001:2026 (予定:現DIS)
4 組織の状況	4 組織の状況
4.1 組織及びその状況の理解	4.1 組織及びその状況の理解
4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解	4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解
4.3 環境マネジメントシステムの適用範囲の決定	4.3 環境マネジメントシステムの適用範囲の決定
4.4 環境マネジメントシステム	4.4 環境マネジメントシステム
5 リーダーシップ	5 リーダーシップ
5.1 リーダーシップ及びコミットメント	5.1 リーダーシップ及びコミットメント
5.2 環境方針	5.2 環境方針
5.3 組織の役割、責任及び権限	5.3 組織の役割、責任及び権限
6 計画	6 計画
6.1 リスク及び機会への取組み	6.1 リスク及び機会への取組み
6.1.1 一般	6.1.1 一般
6.1.2 環境側面	6.1.2 環境側面
6.1.3 順守義務	6.1.3 順守義務
6.1.4 取組みの計画策定	6.1.4 リスクと機会 《新設》
	6.1.5 取組みの計画策定 《移動》
6.2 環境目標及びそれを達成するための計画策定	6.2 環境目標及びそれを達成するための計画策定
6.2.1 環境目標	6.2.1 環境目標
6.2.2 環境目標を達成するための取組みの計画策定	6.2.2 環境目標を達成するための取組みの計画策定
	6.3 変更の計画と管理 《新設》
7 支援	7 支援
7.1 資源	7.1 資源
7.2 力量	7.2 力量
7.3 認識	7.3 認識
7.4 コミュニケーション	7.4 コミュニケーション
7.4.1 一般	7.4.1 一般
7.4.2 内部コミュニケーション	7.4.2 内部コミュニケーション
7.4.3 外部コミュニケーション	7.4.3 外部コミュニケーション
7.5 文書化した情報	7.5 文書化した情報
7.5.1 一般	7.5.1 一般
7.5.2 作成及び更新	7.5.2 文書化した情報の作成及び更新
7.5.3 文書化した情報の管理	7.5.3 文書化した情報の管理
8 運用	8 運用
8.1 運用の計画及び管理	8.1 運用の計画及び管理
8.2 緊急事態への準備及び対応	8.2 緊急事態への準備及び対応
9 パフォーマンス評価	9 パフォーマンス評価
9.1 監視、測定、分析及び評価	9.1 監視、測定、分析及び評価
9.1.1 一般	9.1.1 一般
9.1.2 順守評価	9.1.2 順守評価
9.2 内部監査	9.2 内部監査
9.2.1 一般	9.2.1 一般
9.2.2 内部監査プログラム	9.2.2 内部監査プログラム
9.3 マネジメントレビュー	9.3 マネジメントレビュー
	9.3.1 一般
	9.3.2 マネジメントレビューへのインプット
	9.3.3 マネジメントレビューの結果
10 改善	10 改善
10.1 一般	10.1 継続的改善
10.2 不適合及び是正処置	10.2 不適合及び是正処置
10.3 継続的改善	

【お問い合わせ】

特集内容に関するご質問・ご不明な点等ございましたら、東京事務所 ISO認証部までお問い合わせください。

ISO認証部 Email:cert-scheme.japan@intertek.com

INFORMATION -セミナー情報-

関連セミナーも順次開催しております。

◆ ISO 14001:2026(予定) 認証移行に向けて 環境マネジメントシステム改訂規格(案:DIS)セミナー 《オンデマンド》

【概要】

本セミナーではISO 14001の改訂規格案「要求事項全体の理解」から、現2015年版から予定である2026年版への認証移行の準備につなげることを目的としております。また、参考として2026年後半改訂発行予定のISO 9001の進捗情報もふれさせていただきます。

【内容】

- ・ISO 14001環境マネジメントシステム規格改訂発行情報
- ・ISO 14001:2026(予定)改訂規格(案:DIS)要求事項「各箇条要求事項の改訂部分と解説」
- ・認証移行へ 移行審査の必要性和準備

※セミナー詳細・お申し込み等は、弊社ホームページをご参照ください。
https://ba.intertek-jpn.com/on_demand/?category=2

世界のISO認証件数が公表

ISO(国際標準化機構)は、2024年末時点での世界のISOマネジメントシステム規格の認証件数を集計した“ISO Survey 2024”を公表しました。対象は、ISO 9001(品質)、ISO 14001(環境)、ISO 45001(労働安全衛生)、ISO/IEC 27001(情報セキュリティ)、ISO 22000(食品安全)など16規格です。

2024年版は、2022年版から導入されたIAF CertSearch(IAF=国際認定フォーラムによる認証機関向けグローバルデータベース)の完全活用により、これまで未報告だった認証機関のデータの追加で認証件数が大幅に増加し、さらに77認定機関中76機関と2,400超の認証機関の参加でデータ精度も向上しています。

世界的な傾向として、ESG対応によるISO 14001の急増、安全・健康重視からのISO 45001の急成長、DX推進やセキュリティ強化でのISO/IEC 27001の倍増などが見られます。また、主要規格の認証件数では、ISO 9001が1,474,118件(前年比76%増)、ISO 14001が676,232件(同125%増)、ISO 45001が542,527件(同193%増)、ISO/IEC 27001が96,709件(同104%増)で、国内の認証件数も全体的に増加傾向でした。詳細はIAF公式サイト(<https://www.iafcertsearch.org/services/iso-survey>)で公開されています(※閲覧には登録・ログインが必要です)。

FSSC 22000 Version 7発表へ

FSSC財団は、2026年春に、FSSC 22000 Version 7(以下Ver. 7)を発表します。Ver. 7では、食品安全マネジメントシステム(FSMS)をグローバルな食品サプライチェーンにより適合させるため、次のような特徴が盛り込まれています。

- ①GFSIベンチマーク要件2024へのスキーム整合
- ②前提条件プログラムに関する新たなISO 22002-Xシリーズ*の組み込み
- ③組織が持続可能な開発目標(SDGs)達成に貢献する取り組みを支援するための要件強化
- ④食品チェーンカテゴリの区分をより明確化

なお、Ver.7への移行期間は、2027年4月～2028年3月となることが見込まれています。改訂に関するお問い合わせは、食品認証部(E-mail: jpn.ba.food@intertek.com)まで。また、オンデマンド形式での関連セミナーも開催予定です。内容が確定しましたら、弊社ホームページにてご案内いたします。

*新たなISO 22002-Xシリーズについて:
ISO 22000シリーズ共通のPRPsを統合したISO 22002-100が2025年7月に新規発行されました。併用されるセクター別規格(ISO 22002-1食品製造、-2 ケータリングなど)も同時に改訂されています。

ビジネスマッチ東北2025/脱炭素経営EXPO関西2025に出展

2025年11月13日に夢メッセみやぎで開催された東北最大級の展示会「ビジネスマッチ



東北2025」に出展いたしました。ISO規格のほか、GHG(温室効果ガス)算定・検証、CSR監査、ISCC認証、リサイクル認証など、各種サステナビリティサービスをご紹介します、SDGsを含む企業経営に直結するテーマについて多くのご意見をいただきました。

さらに、同11月19～21日にインテックス大阪で開催の「SMART ENERGY WEEK 関西/サステナブル経営WEEK関西2025」内の「脱炭素



経営EXPO関西2025」にも出展。オープンセミナーでは、弊社サステナビリティ部門責任者の西園が

登壇し、脱炭素経営について第三者検証機関の視点から講演し、好評をいただきました。

両展示会とも多くの方にご来場いただき、交流・情報交換の貴重な機会となりました。お立ち寄りいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

Q&A

今号は、規格改訂関連セミナーなどを開催しているオンデマンド研修に関するご質問についてご紹介いたします。

Q1. 「ISO 14001:2026(予定)認証移行に向けて」のセミナー(オンデマンド研修)が2種あり、どちらを受講したらいいのかわかりません。この2つのセミナーの違いについて教えてください。

- ①環境マネジメントシステム改訂準備セミナー
- ②環境マネジメントシステム改訂規格(案:DIS)セミナー

A1. 2つのセミナーの主な違いは以下の通りです。

- ①改訂に伴う移行審査の準備事項についての説明:2026年版への認証移行、また、移行後の有効な運用に向けての準備、そしてスケジュールイメージをつかんでいただくことを目的としており、主な内容として、ISO 14001:2026(予定)認証への移行審査の必要性和準備、認証移行後の有効な運用に向けてインターテックの期待などになります。
- ②改訂規格(案)に関する内容やその解釈:改訂規格案「要求事項全体の理解」を目的としており、主な内容は、ISO 14001:2026(予定)改訂規格(案:DIS)要求事項となります。

Q2. オンデマンド研修の受講期間中、コース動画は繰り返し視聴できますか? また、テキスト資料はもらえますか?

A2. 受講期間中は、コース動画を何度でも繰り返し視聴いただけます。理解が難しい部分を見直すことで、より深く学習していただくことができます。

また、テキスト資料については、受講用にご案内するオンデマンド研修専用の学習サイトからダウンロードが可能です。

ご質問・ご不明点等は、東京事務所 インターテックアカデミー & トレーニングまでお気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ】

インターテックアカデミー & トレーニング

Tel: 03-4510-2767

Email: academy.training.jpn@intertek.com

※弊社ホームページからもお問い合わせいただけます。
(<https://ba.intertek-jpn.com/contact/>)

お客様紹介

株式会社ヨシダセイコー 津幡工場 様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015 認証登録)

(取材者) 審査員 美濃 英雄
Hideo Mino

「旋盤・複合加工品のトータルパートナー」株式会社ヨシダセイコー様は、1952年の創業以来、石川県を拠点に機械加工の専門技術を磨き続け、最新のNC旋盤やマシニングセンタなどの設備を駆使して複雑な加工にも柔軟に対応し、建設機械、農業機械、油圧・空圧機器、自動車、産業機械、医療機器、半導体装置など、幅広い分野に高品質な部品を提供されています。2009年開設の大阪営業所では受託加工の窓口として、素材調達から機械加工、板金プレス、絞り品、射出成形、製缶溶接、組立までを一貫対応されています。

2007年にISO 9001、2008年にISO 14001を認証取得され、その後は複合マネジメントシステムとして運用されるとともに、事業活動に適した実践的な仕組みとして活用・維持されています。トップマネジメントの主体的かつ積極的関与が、各リーダーの自律的なリーダーシップの発揮や全社的な取り組みへつながるなど、その卓越した社長様のコミットメントは審査で高く評価されました。ISO 9001の定着により、多品種少量生産から大ロット生産まで幅広い品質管理を実現し、さらにISO 14001との相乗効果に



工場全景（石川県津幡町）

よって環境への配慮とコスト低減にも取り組まれています。また、自動化や省人化の推進により、生産性・品質の安定性向上と従業員の働き方改善にもつながられています。

今後も「ものづくりのプロ集団」として培われた技術力と柔軟な対応力を強みとして、多様なニーズに応える信頼されるパートナーとしてさらなる躍進を遂げられることを期待しております。



製造現場にて



金属加工部品

<https://yoshida-seiko.jp/>

連載
よみもの

審査員の心理

第43回（環境編）

「パフォーマンス評価（4）」

環境主任審査員 大村 敏夫
Toshio Omura

規格では、「9 パフォーマンス評価」の中に「9.2 内部監査」も位置づけられています。内部監査もPDCAの(Check)に相当し、改善すべき点を発見すると共に是正をするためのツールでもあります。

内部監査の充実度は、組織によっての差は大きいと感じています。内部監査を実施する内部監査員と被監査部署で監査に対応する人が、共にレベルアップしていくことが望ましいのですが、どこかのレベルで停滞していると感じることがあります。内部監査員は、内部監査員としての教育を受けているはずですが、その中で、規格の解釈や指摘の仕方を学んでいたでしょう。

内部監査では、逐条型監査(ISO規格の要求事項を項目ごと

に確認していく監査方式)と有効性監査(組織の目標達成にどの程度貢献しているかを評価する監査)という分け方がされ、逐条型監査から有効性監査に発展させることが望ましいと言われてはいますが、有効性監査でも規格要求事項の適合性を確認した上で実施されるべきだと考えています。内部監査員は、事前準備として、マニュアルや手順書で構成されたマネジメントシステムが規格要求事項に適合しているかを確認した上で、内部監査で確認すべき事項を計画しておくことが好ましいでしょう。管理責任者の内部監査では、全社のマネジメントシステムが規格の要求事項に従って適切に管理されているかが主な監査項目になるでしょう。部門の内部監査では、マネジメントシステムで決められた通りに活動が行われているか、という視点での監査になるでしょう。被監査部署でも、実施されている活動が、規格やマニュアル等で規定された何処に基づいているか、説明できることが好ましいでしょう。

内部監査員と対応者が、共にレベルアップしていけるように、審査の中で促すことができれば幸いです。





審査員リレーエッセイ ⑧9

From

山口県光市

林 憲治

(はやし けんじ)



Profile

専門分野：ISO 9001・ISO 14001—化学装置及び低温プラント製品の品質保証、設計・開発・製造管理ほか

経歴：株式会社日立プラントメカニクス、インターテック審査員（現職）

審査員からのエッセイをお楽しみください。

「ベランダからの風景 — 健康のありがたさ —」

我が家のベランダからは、瀬戸内海国立公園の美しい海岸線を一望できます。夏になると、海上花火が開いた時の風圧や心地よい海風に包まれ、リゾート気分です。



そんな中、今年の初めに胸や背中に今まで感じたことのない痛みがあり、受診したところ心筋梗塞とわかり、緊急手術と入院生活を経験しました。ほんの少しの体調の変化も、見逃さずに早めの受診が大切だと実感しました。皆さんも、日頃お忙しくされていると思いますが、ちょっとした体調の変化を見逃さず、健康に十分ご注意ください。

連載 「ゆらぐ時代と、つなぐ力」 ① 【新】

環境よみもの

「ISOとともに未来を見つめて」

今号より新連載がスタート！

変化する時代に対応するヒントとして、引き続き環境ISOに加え、サステナビリティやESG経営など、未来を見据えたテーマを幅広くお届けしてまいります。

船井 勲 Isao Funai

品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任審査員
IRCA認定 品質・環境・労働安全衛生マネジメントシステム主任講師

■ はじめに

品質、環境、労働安全衛生の主任審査員およびIRCA主任講師をしております船井 勲と申します。今回からこの連載を担当することになりました。前執筆者の郷古氏とは、講師や審査でもご一緒し、ISOマネジメントシステム規格への思いや姿勢を共有してまいりました。

今後はその思いを引き継ぎ、新しい視点から本連載をお届けしていきたいと思っております。

■ 環境への原点

私は子どもの頃、石弘之氏著書『地球環境報告』を読み、地球温暖化や森林破壊、資源の枯渇といった課題に関心を持ち、将来環境に関わる仕事をしたいという希望が芽生えました。あれから30年、当時の懸念が現実となりました。企業はパリ協定他、国際的な枠組や、環境と調和した取り組みが求められています。

■ 国際潮流と企業経営の現在地

国連の「持続可能な開発目標 (SDGs) 報告 2025年6月」によれば、日本は167か国中19位とされ、依然として課題が多い状況です。特に「ジェンダー平等」や「気候変動対策」等が最低

ランクで、世界全体でも169のターゲットのうち、「順調に進んでいる (on track)」と「ある程度進んでいる (fair progress)」を合わせても約35%にとどまっています。2030年目標の達成に取り組み強化が必要です。

この流れは、2024年の「国連未来サミット」で採択された「未来のための協定」を継承し、今年も各国・国際機関が行動を進めています。資金調達の強化、気候変動対策の加速、AIの国際管理など、将来への責任を果たす取り組みが続いています。こうした潮流は企業経営にも影響を与え、ESG (環境・社会・ガバナンス) を軽視する企業は市場から選ばれない時代を迎えています。

■ ISOが導くつなぐ力

このような国際的な動きに早くから着目していたのが、前任が執筆した連載や審査活動、セミナーでのコメントでした。前任は、コロナ禍が企業のリスク管理の脆弱さを浮き彫りにし、ISO 14001が持つ「リスクと機会の特定」「ライフサイクル思考」「社会的責任への対応」の重要性を説きました。人と自然の距離が近づきすぎたことで生じた感染症、分断されたサブ

ライチェーン、希少資源をめぐる紛争や人権問題、そして社会の不安定化—これらが示したのは、環境と経営課題が密接に結びついている現実です。ISO 9001、ISO 45001を含め本業と一体化すれば経営を支える有効なツールになると改めて認識させられます。

私もその視点を引き継ぎ、ISO 9001、ISO 14001、ISO 45001を、企業の持続可能性を支える仕組みとして再確認したいと思います。品質維持・向上、環境配慮、安全な職場提供—この統合的な運用が、企業の「つなぐ力」になると信じています。

■ ともに考える未来

新連載では、前任の「危機からの学び」を踏まえ、ISOの視点で今を見つめ、未来へつなぐ考え方を皆さまと共有していきたいと思っております。揺らぐ時代だからこそ、理念と実践、社会責任と企業のあり方、そしてSDGsに示される現在と未来をつなぐ力が求められています。ISOは私たちが歩むべき道を照らす羅針盤であり続けると認識しています。





お客様
からの
お便り

日本を代表するブレッドカンパニーへ

株式会社スタイルブレッド (ISO 22000:2018 認証登録)

PRチーム 柚木 彩花



スタイルブレッドは群馬県桐生市で四代続く製パン業です。大正時代に菓子屋として創業し、和菓子作りの傍らで当時珍しかったパンを焼き始めました。1930年(昭和5年)に屋号を「桐生製パン所」として製パン業に専念。その後、戦時中は配給用パン、戦後は二代目が学校給食パンを担い、三代目は市内にベーカリー3店舗を展開。そして2006年に、四代目が「株式会社スタイルブレッド」として新たにスタートし、冷凍パンの製造・販売を開始。現在は東京本社・桐生本社を中心に国内外に12拠点を展開し、パン一筋で歩み続けています。

桐生市内にある3つの工場では、2013年に「ISO 22000」を認証取得。群馬県産を中心とした国産小麦や自家製の

「桐生酵母」を使用し、低温長時間熟成製法を用いて、一つひとつ丁寧にパンを焼き上げています。焼きたての状態をそのまま急速冷凍で鮮度を保ち、全国約4,000社のホテル・レストラン・結婚式場・機内食などにご提供しています。

2018年からは家庭向けブランドを立ち上げ、自社オンラインストアでの販売を開始。冷凍庫にストックしておくだけで、いつでも焼きたてのパンをお楽しみいただけます。これからも、国内外で「ジャパニーズプレミアムロール」スタイルブレッドとしてブランドを確立してまいります。



商品ラインナップ

▶ <https://stylebread.com/>

創業120年を迎えるベンチャー企業

オズ株式会社 (ISO 9001:2015、ISO 14001:2015、ISO 45001:2018 認証登録)

生産チーム 中本 治利



本社・社屋内(和歌山県有田市)

当社は、明治39年、和歌山県有田市で創業、大正7年、内外除虫菊株式会社を設立、2018年、現社名に変更しました。2025年にISO 9001、14001、45001を認証取得致しました。認証範囲は、雑貨のアッセンブリおよび製造です。

私たちはオズの仕事のスタイルを「企画開発型製造業」と呼んでいます。簡潔に言うと「おもしろいと思ったものを作る」ということです。普通の製造業なら自前の設備やノウハウ・得意分野があり、それに応じて作るものを決めるところですが、オズでは「設備がない」とか「業種が違う」とか、そうした理由を一旦脇に置きます。そして「どんなものを作ったらおもしろいだろう?」と考えを巡らせ、商品のアイデアを出します。考えるうち

に「これは!」と思えるアイデアが出れば、それを商品化するために奔走します。たいていは壁にぶち当たりますが、自分たちで頭をひねったり、仲間の企業の力を借りたり、とにかく全力を尽くします。

やがて、いくつかのアイデアが形になって市場に出ます。全てがヒットするわけではないものの、出し続けているとお客様に受け入れてもらえる商品が見つかります。それが売れ続ける間は主力商品として製造を続けつつ、次なる「おもしろい」の種を探します。空想、時には妄想のようなアイデアを「商品の企画開発」という手法で具現化し、自分たちの未来を創っていく。それがオズです。



内外除虫菊-MOONTIGER
(月虎蚊取線香)

▶ <https://www.oz1918.com/>



年の干支は丙午(ひのえうま)。丙は太陽のような情熱を、午は行動力や転換を象徴し、挑戦に適した年とされます。一方で、『丙午生まれの女性は気性が激しい』という言い伝えもあり、背景には丙と午の火の性質から火事や災厄を連想したことに加え、江戸時代に恋に狂い放火した八百屋お七の事件が浄瑠璃や歌舞伎で描かれ火との結びつきが文化に刻まれたとされています。この迷信は近代まで影響し、前回1966年の丙午年には娘の結婚を心配した親が届出時期の調整や出産を控える動きもあり、出生数が前年より約25%減、約50万人も減少する社会現象となりました。実際、昭和初期頃までは結婚時に敬遠される傾向もありましたが、科学的根拠はなく、今では日本独自の迷信とされています。

すべてを燃やす躍動を意味する丙午の今年は、来月イタリアで開幕する「ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック」を象徴しているかのようです。今回はミラノとコルティナ・ダンベツツォの共同開催で、冬季大会としては史上初の複数都市開催です。ミラノは夏冬通じて初、コルティナは1956年以来2回目の開催で、当時はテレビ中継が導入された記念すべき大会でした。今回の大会では、2つの聖火台が設置され、両都市で同時に点火される予定です。さらに新競技として山岳スキーが加わり競技面でも進化する一方、運営面では持続可能性を重視し、再生可能エネルギーの活用やカーボンニュートラルを目指す取り組みが目玉とされています。

午＝馬といえば、昨年の秋ドラマでは競馬の世界を舞台にした作品が話題になりましたが、競走馬の代名詞サラブレッドは、徹底した繁殖管理から生まれた「純血種」を指します。公認競馬に出走できるのは基本的にサラブレッドのみで、その血統は18世紀の英国で確立されました。世界中のサラブレッドの父系を遡ると、最終的にわずか3頭の馬に行き着くそうです。バイアリーターク(推定1680年生)、ダーレーアラビアン(同1700年生)、ゴドルフィンアラビアン(同1724年生)、これらは「3大始祖」と呼ばれ、世界の競馬文化を築いた存在です。走る伝説ともいえるサラブレッドは、歴史とロマンを感じさせますね。

日本では古来より馬は神の使いとして神聖視され、祈願の際に生きた馬を奉納していました。やがて木板に馬の絵を描いて奉納するようになり、これが絵馬の始まりです。現在では多様なデザインがあり、学業成就や健康祈願などを込めて奉納します。馬は力強く前進するイメージから勝負運や出世運、商売繁盛の象徴とされ、「馬九行久(うまいく)」は、異なる運気を表す9頭の馬が駆け抜ける姿から、「何事も上手くいく」という願いを込めた縁起の言葉として親しまれています。情熱と活力にあふれる丙午の年、皆様にとって健やかで力強さあふれる一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。(参照・出典:文化庁、デジタル岡山大百科、厚生労働省、JRA、神社本庁、JOCHP内ミラノ・コルティナ2026公式各HP)

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。(https://ba.intertek-jpn.com/study/)

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけでなく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加いただくことが増えております。業務改善や力量向上を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

- ISO 9001 (5日間) / ISO 14001 (3日間) / ISO 45001 (3日間)
- ※ ISO 14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。
- 詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

日程・開催地

- ISO 9001・・・ 3/17(火)～ 21(土)〈東京〉
- ISO 14001・・・ 5/14(木)～ 16(土)〈東京〉
- ISO 45001・・・ 5/23(土)～ 25(月)〈福岡〉
- ・・・ 6/11(木)～ 13(土)〈東京〉

【統合】ISO 9001・ISO 14001 内部監査員養成コース

2日間で品質、環境マネジメントの規格要求、内部監査についての講義、及び演習(課題演習、模擬内部監査)を行います。

開催地 東京(弊社東京事務所) **日程** 2/26(木)～ 27(金)



オンラインセミナー

オンラインセミナー好評開催中！
各規格(ISO 9001/ISO 14001/ISO 45001/ISO 27001等)の内部監査員養成コースを開催しています。また、講師派遣型セミナーもオンライン対応可能です。

*弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からの
お便り

～基礎から学ぶ～【統合】ISO 9001・ISO 14001内部監査員養成コースを受講して

～基礎から学ぶ～【統合】ISO 9001・ISO 14001内部監査員養成コース(2025年8月東京会場)受講

株式会社日本海メディカル 商品管理部 管理課 高野 由衣

弊社は医療機器の画像診断装置に使用される部品を取り扱う専門商社として、自社ネットワークを活かしたお客様製品要望の実現や商流構築・最適化のサポートを行っております。品質と信頼のさらなる向上を目的に、2023年にISO 9001/14001の認証を取得しましたが、今回は活動の定着と理解をより深めるため、内部監査員養成講座に参加いたしました。

講義では、ISOの基本理念から監査の進め方まで、実例を交えてわかりやすく学ぶことができました。特に印象に残ったのは、「監査は不適合を探すだけの場ではなく、組織の改善を促すための活動である」という講師の言葉です。今後の内部監査では、単なるチェックに留まらず、現場の改善や気づきを引き出せるよう意識して取り組んでいきたいと思っています。

インターテック・サーティフィケーション株式会社 <https://ba.intertek-jpn.com/>

東京事務所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル4F

E-mail: info.ba-japan@intertek.com

大阪事務所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F

E-mail: info.ba-osaka@intertek.com